



2001・⑦

# 雪たねニュース

北海道版 No.278

## 今月の主な目次

- 暑熱時の飼養管理  
飼養環境の整備を進めよう
- 旭川編・新しい酪農経営をめざして
- 畜舎環境改善資材のご紹介
- 夏の草地更新技術

### 時の話題

## 学校の校庭を芝地に!!

### 自然の営みの中に身をおく

幼稚園・小学校・中学校・高等学校などのグラウンドやその周辺部を、緑の芝生で覆いたいものです。芝生の上でも、けがはおこるでしょうが、土やコンクリートと比較すると、格段に安全だと思います。

芝生を育てると、ミミズも増えてきますし、昆虫(幼虫)なども集まり、やがては、小鳥も沢山集まってきます。原っぱの中に身を置き、自然のうごめきを観察したり、体験することができます。

### 誰が造成するか?

芝生を作るとは、さほど難しいことはありません。牧草地を作られておられる酪農家のみならずは、機械も技術も持ち合わせております。ですから、酪農家の方が、一肌ぬぐか、あるいは協力をお願いするとよいでしょう。

土壌改良資材や種子代がかかります。これは、学校で予算化していただくか、PTAの記念事業として予算化するなどの方策が必要です。

### 誰が管理するのか?

芝生を作ると言うことは、誰がどのように管理するのか、とおきかえる事ができ、管理が極めて重要です。造成は瞬間的なできごと、管理は、ずっと続く仕事だからです。

芝生を管理するクラブ(同好会)ができ、子供たちがイニシアチブをもって運営できれば最高です。当面は、OB・OGの奉仕活動でスタートし、子供たちに引き継ぐのも現実的です。

OB・OGの中に、気の利いた方がおれば、維持管理をしながらパークゴルフコースも、わけなく作り上げることも出来るでしょう。

### 成功のポイント

- ①裸地を緑地に変換するわけで、時間をかけて少しずつ良くするという考えが大切です。
- ②刈刈機は、小面積の動力手押しタイプ、大面積の乗用タイプ、通常その両者が必要です。
- ③草地・芝地は、短い間隔でしよちゅう刈取りを行うことよって、齊一で美しい芝地に近づけていくことが出来ます。
- ④刈取り間隔が短いと対応し、肥料もこまめに回数あげて、少量ずつ散布することが必要です。
- ⑤準備作業、造成(播種)作業、そして、維持管理作業と続きます。愉快な、楽しい作業とし、子供たちも興味を持ち、一緒に加わりたいような雰囲気づくり、それが大切です。

(研究本部長 山下太郎)